

今年も、もう間もなく梅雨^{つゆ}の時期を迎えます。つゆを、梅の雨で「ばいう」とも読みますが、その読み方の由来は、梅の実が熟すころに降る雨や、この時期に多く見られる^{かび}黴をもたらす雨としての「^{ばいう}黴雨」などさまざまなようです。

皆様ご存知の通り、この時期の雨は、強く大地を洗い流すような雨ではなく、しとしとと降り続きます。そんな気候にあると、つい「今日も雨か……」と空模様をながめ、^{ゆううつ}憂鬱に思うこともあります。

とはいえ、私たちは、この日の空模様から逃れるわけにはいきません。雨の多いこの時期だからこそ、いっそのこと、雨を味わってみるといのはいかがでしょうか？

雨の音をじっくりと味わってみましょう。梅雨^{つゆ}の雨は、しとしとと降りますから、その小さな音は、耳を良く澄^すませていないと聞き逃してしまうかもしれません。目を閉じて耳を澄ませて、雨の音が聞こえるまで、じっくりと耳を^{かたむ}傾けてみましょう。すると、耳には色々な雨音が聞こえてきます。あの音は、窓ガラスに当たる音。この音は、地面の小石にあたる音。耳を傾けて聞こえてくる外の音は、^{こくいつこく}刻一刻と変化をしていきます。外の雨音に合わせて、私たちの内側の^{こころ}こころの音、気持ちも、刻一刻と^{こころ}心地よかったり、また^{ふかい}不快であったり^{こころ}と変化しているかのようです。

ところで、私たちは雨音と一口^{ひとくち}に言いますが、これは、雨そのものの音というわけではありません。私たちが普段耳にする「雨音」は、雨粒が大地や物にあたる音ですので雨の音そのものとは言えないのではないのでしょうか。

雨の音は私たちの^{こころ}こころが生み出している音なのです。雨音を聴くと言うことは、自分の^{こころ}こころを見つめることでもあるのです。

梅雨^{つゆ}は、じっくり雨と付き合うことのできる季節とともに、私たち自身の^{こころ}こころを見つめる季節です。^{せっかく}折角の梅雨の季節、そんなことを思いながら過ごしてみてもいかがでしょうか。